



建学の精神

キリスト教青年会(YMCA)は、1844年(弘化元)にイギリス・ロンドンで創立した、青年を中心にした世界的なキリスト教運動の団体です。

すべてのYMCAは、イエス・キリストを聖書に従って我が神、我が救い主と仰ぎ、「知性」「精神」「身体」を表す逆三角形をシンボルとし、この三つのバランスの取れた人間の育成を目指し、活動を行なっています。

〈大阪キリスト教青年会(大阪YMCA)〉(以下、大阪キリスト教青年会と表記)のすべての学校も、この精神に沿って設立しています。



大阪キリスト教青年会 校章・マーク
正三角形の各辺は「精神(Spirit)」「知性(Mind)」「身体(Body)」を表わし、校章はこの三つのバランスの取れた成長を表わしています。

学校法人 大阪キリスト教青年会

〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀1-5-6

TEL : 06-6441-0894 FAX : 06-6445-0297



創立

大阪キリスト教青年会が最初に設立した学校は、1893年(明治26)に開校した〈大阪青年会夜学校〉で、〈大阪YMCA国際専門学校〉の前身です。

当時は教育勅語の公布(1890年(明治23))や、大阪市では学区制度が強制実施されるなど、帝国主義政策が国民の教育の中に一步一步、日常的な形で浸透していくような時代でした。1891年(明治24)には、いわゆる「内村鑑三不敬事件」が起り、キリスト教は反体制的性格を示すものとされました。井上哲次郎は、1893年(明治26)『教育時論』に寄稿した「教育と宗教の衝突」と題する論文で、「キリスト教は非国家的なり」と非難しています。このような状況下で、大阪キリスト教青年会は補習教育事業に重要な一歩を踏み出しました。ただ、種々の事情で、翌年には、いったん休止せざるを得ませんでした。

1901年(明治34)アメリカYMCA同盟主事であったジョージ・グリーンソンが大阪キリスト教青年会に派遣されました。赴任の翌年、グリーンソンは当時の大阪の状況や市民の教育状況を見た上で、1894年(明治27)から中断していた夜学校を再開させます。さらに1903年(明治36)〈大阪青年会英語学校〉と改称して、私立学校令に準じて大阪府の認可を受けました。この学校は、その当時の大阪においては唯一の正則の英語夜学校で、老若を問わず数多くの勤労者が入学し、商業都市大阪にとって大変有意義な学校となりました。

時代は下り、1990年代に入ると、全国的に不登校や高等学校中退者が増大し、従来は勤労青年のための勉学の場だった通信制高等学校が、その受け皿となりました。不登校や高等学校での進路変更を余儀なくされている生徒たちに対して、これまで大阪キリスト教青年会総体として培ってきたノウハウを生かし、かつYMCAの精神に則った、従来にない新しいタイプの学校として、2002年(平成14)〈YMCA学院高等学校〉が開校しました。教育条件の整備のほかに相談体制を充実させたり、広域通信制のシステムを取って指定された15都府県からの入学を可能とするなど、従来の枠にとられない、学び易い仕組みを工夫した学校になっています。

創立の背景と歴史

YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略で、1844年(弘化元)産業革命下のイギリス・ロンドンで、魂の救済による社会的改革を目指して結成されました。結成メンバーとして異なる教派の信徒が手を携えており、キリスト教徒だけではなく一般の青年をも引きつける運動として世界中に発展しました。YMCAは誕生した当初から超教派の人びとの集まりであり、このことはYMCAの基本的性格となっています。

やがて、この運動に参加した青年たちの知的要求に応じて、宗教のみならず、さまざまな社会問題や経済学などの公開講演会が、一流の講師を迎えて開かれるようになりました。さらには図書館が設けられ、運動を一層活発なものにしました。〈宗教心・精神(Spirit)の涵養〉から〈知性(Mind)の向上〉のためのプログラムが生まれたというわけです。この二つには、内面的な深い結びつきがありますし、YMCAの目的にかなったものでもありました。これはやがて、身体(Body)の鍛錬のための体育事業や、社会奉仕のプログラムへと発展する最初の糸口ともなっています。

日本で最初のYMCAは、1880年(明治13)東京に創立されました。〈青年〉という言葉は、そのときに創造されたものです。さらに、バスケットボールやバレーボールなど各種のスポーツを日本に紹介したのもYMCAで、健康活動や野外活動の推進にも大きな役割を担ってきました。

大阪キリスト教青年会は1882年(明治15)創立され、東洋で最初につくられた土佐堀の〈青年会館〉は各種の講演会や集会に広く用いられました。大阪キリスト教青年会に連なる、学校法人大阪キリスト教青年会は特定の人物により創設されたのではなく、明治初期に大阪市内のキリスト教徒の有志が協力してスタートしました。当初からエキシメニカルな団体として組織され、創設に尽力した人物には、澤山保羅(当時・浪花教会牧師)、ジョージ・オルチン(同・アメリカ組合教会宣教師)、宮川経輝(同・大阪教会牧師)、古木虎三郎(同・天満教会牧師)などがいます。創立者を特定の個人とするのは、前述の経緯からふさわしくありませんが、ここで敢えて「創立者」の一人として大阪キリスト教青年会初代会長である宮川経輝を紹介します。



創立者 宮川経輝(1857~1936年)
およそ50年の長きにわたり、
大阪教会牧師として生涯を捧げました。

1857年(安政4)肥後国阿蘇の神官の家に生まれ、15歳のときに洋学を志し熊本へ出ます。1872年(明治5)熊本洋学校に入学し、導かれて1876年(明治9)リロイ・ランシング・ジェーンズから洗礼を受け、熊本バンドの一人となりました。熊本バンド結成に対する守旧派の反発が一因となって、ジェーンズの任期終了とともに熊本洋学校は廃校になったため、その後、京都の同志社に移りました。1879年(明治12)第1回卒業生となり、同志社女学校の教頭を務めています。1882年(明治15)5月に大阪教会牧師に着任、同年創設の大阪キリスト教青年会初代会長に就任しました。

1904年(明治37)日露戦争が始まると、調査団として朝鮮(当時)に渡り、在住日本人に伝道。日本メソヂスト教会初代監督の本多庸一とも、しばしば一緒に戦地を慰問しました。日本組合基督教会の指導者で、海老名弾正、小崎弘道とともに、組合教会の三元老の一人といわれました。